

日本語学習者の自然発話に見られるフィラーの誤用分析
—中国語母語話者を中心に—

国立台湾大学日本語学科修士三年

詹育萱 (センイクケン)

要旨

「フィラー」は日本語の中で実質的な意味を持っていないが、フィラーは「談話を構成する重要な要素として、従来から日本語教育における学習の必要性指摘されている」と小西円 (2018) が述べている。今までフィラーについての研究も数多く行われてきたが、日本語学習者が使っているフィラーは一体どこまでが自然であると言えるかについてはまだ不明であると思われる。本稿は『BTSJ 日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2021 年 3 月版』を利用する。中国語母語話者の初級と中級日本語学習者 (以下「初級・中級学習者」で示す) の発話を収集してから、考察を行う。現段階で分かることを以て、まず以下の三点にまとめてみる。

- 1、先行研究の示している通り、初級と中級学習者の共通点は特定なフィラーに限て、会話の中で繰り返して使用することである。今回扱った学習者の発話には「母音型」のフィラーが多い、「語彙型」のフィラーはほぼ「アノ類」と「ハイ類」である。
- 2、今回利用するコーパスから、中級学習者の使っているフィラーの種類は初級学習者より 10 種類も増えている。初級と中級学習者におけるフィラーの発話頻度は大体同じであるにもかかわらず、中級学習者の語彙型の「アノ」の発話頻度は初級の 2 倍も超えているということが観察できた。
- 3、初級と中級学習者の発話には一気に二、三種類のフィラーを連続して使うことが見られる。これを 1 点目の特徴的なものと共に観察してみると、1 つの発話には同じフィラーを一気に 3 回以上、用例は少ないが多くは 6 回、10 回まで、繰り返して使う現象も見られる。また、初級と中級学習者のこのようなフィラーの発話頻度は全体の 5% に過ぎないが、ほぼ不自然であることが観察できた。

本稿は学習者のフィラーの使用を観察してから、まず発話頻度から初級と中級学習者の相違点を考察してみた。また、学習者の発話におけるフィラーの連続の使用から、不自然な使用を取り上げて分析を行う。今回の考察を通して、以上の 3 点をまとめたが、その要因は今後課題として進みたいと思う。また、学習者はすぐ答える質問に対して「ウン」を先に発話する傾向も見られるが、自然であるかどうかについてはまだ判断しにくいので、これも今後課題にしたいと思う。